

中学校区におけるめざす子ども像 難しい課題でも、創意工夫しながら解決し、挑戦しつづける子	堺市立 平岡 小学校 校長 丹後 靖史
---	------------------------

令和6年度 重点目標 多様性を認め合い、自分で考え、判断し、決定し、行動できる子どもの育成 ○みんなちがってみんないい(多様性) ○じぶんできめる(自律) ○違いを対話で分かり合う(対話)	
--	--

確かな学びの現状 ●本校では「話す・聞く」力の育成に重点を置いてきた。今後、話し合い活動等で生かして、さらに学びを深められるようにしたい。 ●昨年度の学力調査等の結果において課題となったのは、児童の学習への当事者意識と学習における社会とのつながりの低下である。これらの課題を踏まえ、学習への当事者意識醸成を図るために、今年度は「当事者意識をもった学習者の育成」の研究に取り組む。また社会とのつながりを意識させるには、昨年度から研究指定校になっている金銭金融教育の推進により実現に努める。 ●当事者意識をもち、社会とつながりながら学習を進めるには、読書習慣やICTの活用は必須である。環境作りやスキル向上に努めたい。	豊かな心・健やかな体の現状 ●体育の授業を通して、体を動かすことの喜びを感じられることを目指しながら体力の増進を図っていく。 ●LGBTなどへの理解が求められる社会であることから、多様性を認め合える児童の育成を行ってきた。昨年度の学校評価アンケート項目「友だちには、良いところがあると思う」では98%の肯定的回答があった。 ●健康への促進、生活習慣づくりの啓発を行ってきた。
--	--

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～12月)	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	授業改善	当事者意識をもった学習者の育成	●参加度の高い授業づくり ・研修テーマに基づいた研究授業を全教員が公開 ・「分かりたい」という自律的な学習意欲の供養に努める。 ●問題解決的な学習・自由進度学習 ・自分の考えを書いたり、友だちの意見を聞いたりできるように指導する。 ・3年生以上で各学年で「自由進度学習」を行う。 ●金銭教育 ・各学年1本ずつの研究授業を金銭金融教育の観点で行う。 ・11月の研究大会にて各学年1本の公開授業を行う	学校評価アンケート →肯定的回答8割以上	学校評価アンケート	学期末 又は 年度末	○金融経済教育に2年間取り組んだ成果として、授業者それぞれが授業において「参加度を高める」ための取り組みを取り入れ、子どもたちの当事者意識を高める工夫をすることが出来た。アンケート設問④「授業で学んだことは、学校の外や将来役に立つと思う」の項目で93%の児童が肯定的回答を行った。学習課題を自分事としてとらえる当事者意識の向上につながった。設問③「自分で学習を進めることができる」の項目で83%の児童が肯定的回答を行った。子どもの実態と学校課題と向き合いながら取り組みを進めた。	○11月に行われた金銭教育公開授業に向けて、それぞれの学年で研修目標である「参加度の高い授業づくり」に取り組んだ。研究発表の参観者や金融広報委員会からも高評価を得ることができた。1・2学期に実施した児童へのアンケートでも、個人やグループで問題解決することや、自由進度学習について問うアンケート項目で80%以上の児童が肯定的回答を行った。その一方、書く力や聞く(聴く)力に課題が見られる。今後子どもの実態を踏まえ、基礎基本に関する学習取組の定着など、地に足をつけた取組が必要だと感じる。	○指導力向上への研修・取組に学校が一丸となって取り組んでくれ感謝している。
	読書活動	読書習慣を身につけるための、読書環境づくりの推進	●読書環境づくり ・読み聞かせ、並行読書の実施 ・ノートや成果物による読書量の「みえる化」	学校評価アンケート →肯定的回答8割以上	学校評価アンケート		△設問③「本を読むことは好きである」の項目において、昨年度肯定的回答が64%だったが今年度は最初のアンケートでは72%と大きくポイントを伸ばした。司書、サポーターの方が日々粘り強く「読み聞かせ」読書ノート」の取り組みを継続していただいている成果だと思われる。	△アンケートの結果では昨年度より向上した。児童の読書に対する意識も昨年度より向上した。子どもの読書習慣の向上をサポートしていただいているサポーターを含めた皆様方のご尽力のおかげだと感謝している。	△今後も読書に対する習慣や意識の向上を促す取り組みを継続していただきたい。
	ICT活用	個別最適な学びと協働的な学びの推進としての一人一台タブレット活用の推進	●タブレット活用の推進 ・発達段階や個性に応じたタブレット活用の推進 ・各学年でつけたICTスキルを計画的指導	活用状況 チェックリスト	授業での活用状況	2学期 (10月)	○タブレットの積極的活用は従来から各学級で行ってきたが、今年度はタブレットを使ったトラブルも見られた。学校として情報モラルの啓発を全学年で行うことを必須に、従来の授業スタイルを基本にどうICTを取り入れるのか学校としての課題も見えてきた。	○ほとんどの学級で、タブレットの使用頻度が増加し、筆箱やノートと同じく、タブレットも文房具のような取り扱いに変化してきている。その反面、タブレットを通じたトラブルも見られたことや、書くスピードなどノート指導の面で課題も見られる。子どもの実態を踏まえ、改善していきたい。	○児童のタブレットの状態が痛んできている。この状況でICTの積極活用が維持できるのか心配である。 ○またタブレットは積極的に子どもが使用できるように配慮頂いている一方、書く能力の向上も引き続き指導をお願いしたい。
豊かな心・健やかな体	つながる心	多様性を認め、自分で考え行動して決定する力を身につける。	●多様性・自己決定場面の設定 ・対話を通してトラブル回避と感情のコントロールするスキルの育成 ・各学級で学習場面、生活場面での自己決定場面の設定(3つの言葉がけ) ・友だちの良いところを見つける場面の設定 ・学年担任制の推進 ●いじめ防止に向けて ・アンケートによる早期発見と迅速な情報共有 ・道徳や人権教育に取り組み、豊かな人権感覚を育む	学校評価アンケート →肯定的回答8割以上	学校評価アンケート	学期末 又は 年度末	・感情のコントロールに関する設問では、83%の児童が肯定的回答を行った。目標を上回ったが、言葉遣いや態度において表面に出てしまうことが増えてきたようにも思える。 ○昨年度同様、友だちや自分には良いところがあるの設問では80%を大きく上回る肯定的回答を行っている。引き続き、子ども理解を進め、認める・受け入れることを行っていきたい。 ・いじめ防止に関しては、学校として危機感をもって、授業やアンケートにおいて未然防止、早期発見に努めてきた。	○自己決定・自己肯定感に関するアンケート結果においては全項目80%以上となり目標を達成することが出来た。このことから日頃からの対話を通してのトラブル回避や感情をコントロールする力が着実に付いてきていると感じる。その一方で、言葉遣いや整理整頓等、生活習慣場面では課題が見られる。学年担任制の推進についても学年の実態を踏まえて推進していく方向である。 いじめ防止についてはアンケートによる未然防止・早期発見はもちろんのこと、生徒指導に関する研修を活かしながら子ども理解に努めていることが役立っている。	○中学校区全体で風紀が乱れていることにより、小学生にも影響が出ないか心配している。継続的な学校での啓発はもちろん、地域・家庭での注意喚起等の対応も同時に必要であると考えている。
	健康な体	児童一人ひとりが健康で安全に生きようとする力を身につける	●自律的な健康の推進 ・関係機関と連携し、インターネットやSNSの活用、喫煙・薬物乱用に関する学習を進める。 ・優先順位をつけた時間管理(時間を守る) ●運動習慣・生活習慣づくり ・体育授業の充実 ・運動と睡眠、食育の適切な習慣づくり ・全学年歯科衛生士を招聘して歯科指導	実施の有無	実施状況	学期末 又は 年度末	・ICT活用項目でも記述したが、タブレットによるトラブル事象がみられた。それをうけて学校としても情報モラルの授業に積極的に取り組んだ。学年によっては外部機関に出前授業を行うなどして啓発に取り組んだ。 ○運動習慣については、アンケートの体育の関する設問において、80%の児童が肯定的回答を行った。体育の学習を通して習慣づくりができているように思う。	○スマホ・時間管理に関するアンケート項目においても、全項目80%以上の肯定的回答をしていた。また高学年では外部機関を利用し啓発授業を行った。	○スマホの使い方は家庭での管理も重要であり、学校・地域が一緒になって、トラブル回避に努める必要がある。 喫煙・薬物使用に関しては、高学年は啓発授業を受けているが、禁止を前面に出すネガティブな視点だけではなく、健康増進・向上の視点でも、薬剤師等の講演などをしてもらいたい。
信頼される学校	地域協働	学校情報を積極的に発信すると共に、地域と共に歩む学校づくりを進める。	●地域連携 ・学校ホームページ、校報での積極的発信 ・地域人材の積極的活用	学校評価アンケート →肯定的回答8割以上	学校評価アンケート	学期末 又は 年度末	○12月に保護者アンケートを実施予定	○学校ホームページ等で、毎日学校の様子を伝えている。保護者アンケートにおいても80%以上の肯定的回答を行っていた。 ○今年度は金融経済教育の公開授業(研究大会)があったおかげで、様々な方々にゲストティーチャーとして来ていただき、地域人材の活用につながり、大学教授の指導を受けることができた。	○金融経済教育の学習の中で、地域での店頭販売や地域備蓄倉庫見学などに協力できたことは素晴らしいと考えている。地域の大人が子どもたちを見守っていることを示すことで、より良い環境づくりができるよう、引き続き協力できたらよいと思う。

校長より(年度末) 昨年度から、「多様性を認め合い、自分で考え、判断し、決定し、行動できる子どもの育成」に学校教育目標を変更したことに伴い、スローガンも「みんなちがっていい(多様性)自分で決める(自律)違いを対話で分かり合う(対話)」に変更して取り組み、その定着を図った。実際の学校生活においては、子どもたちにとって、その日の学習や友だち、教職員とのかわりなどにおいて、十分な達成感や充実感、そして人情的環境の中で安心感を得ることができるよう注力して取り組んできた。そのために、学年での交換授業などの取組を通して、一人一人の子どもに寄り添いながら、子どもたちのよさを認め、さらなる意欲を引き出し、自分の目標に向かって自律的に挑戦する姿勢を養うようにしてきた。今年度はアンケート項目も学校教育目標に合致するように改め、目標の進捗がよりとらえられるようにした。 「確かな学び」の面においても、学校教育目標の達成に資するように「多様性」「自律」「対話」を学習等にも取り入れ、指導に生かしてきた。特に今年度は金融経済教育公開授業(研究大会)に注力し、教材研究や指導力向上に対して研鑽を積んだ。成果としては、課題であった授業における「当事者意識」の向上が認められたことが挙げられる。「豊かな心」についても、学校教育アンケートの項目にもあるが、多様性、自己決定、対話などの項目においても、評価が高かった。こういった高評価は、常に学校教育目標を意識した取組(指導・支援)によって得られたものであり、具体的には日常の授業や研究授業の様子、特別活動などから見て取れる。 今後、授業に限らず何事においても「当事者意識の醸成」つまり、「自分事としてとらえる」を真正面に据えて全校挙げて取り組みたい。この目標は堺市の方針とも合致する。そのための手段として、「主体的・対話的で深い学び」の特に「主体的」「自律」に焦点を当てて、「他者と協働し、課題を解決する力の育成」「多様性を認め合う」に取り組むことや、タブレットも効果的に使う方を身につけ、適切な情報活用力やプレゼン力の向上にも役立てるとともに、自分や他者の意見の根拠を吟味できる力の育成も推進していきたい。こうした学習を通じて、積極的に人や社会とかわかり、「持続可能な社会」「だれ一人取り残さない社会」の実現に貢献できる子どもの育成を願っている。	学校関係者評価者から(年度末) 10年前の創立50周年時、児童数は200名をわり、少子化が心配されていたが、来年度60周年の現在、児童数は倍以上になり、子どもたちがにぎやかに学校生活を送っていることは、大変嬉しいと感じている。地域の中の学校として、保護者やPTA、OBでもある地域住民が協力し、安全で静謐な学習環境が維持できるよう、協力していきたいと思っている。
---	--